

# 矢巾ミニバス

## 初出場

# 全国大会へ

3月28日から30日にかけて群馬県で開催される第50回全国ミニバスケットボール大会（日本ミニバスケットボール連盟主催）に初めて出場する「矢巾ミニバスケットボールスポーツ少年団（男子）」（以下、「矢巾ミニバス」）。地区大会と県大会の様子や、全国大会に向けた意気込みなどを聞きました。



### 県大会の戦績

<b>【決勝】</b> 矢巾対山目 (37対34)	<b>【2回戦】</b> 矢巾対小久慈 サンダース (49対37)
<b>【準決勝】</b> 矢巾対水沢みなみ (40対34)	<b>【1回戦】</b> 矢巾対黒西 (69対29)
<b>【準々決勝】</b> 矢巾対好摩 (52対47)	



矢巾ミニバスは、1月12日から14日まで宮古市で開催された「J-A全農いわていわて純情米選手権 第42回岩手県ミニバスケットボール交歓大会」で初優勝。平成7年に結成された矢巾ミニバスが、全国大会初出場を決めました。

全国大会は3月28日から30日まで群馬県の高崎アリーナで開催されます。対戦相手は「愛知県、栃木県、鹿児島県」のチーム。この大会は、1日1試合、計3試合行い、順位の決定などを行わない交流大会です。



22ページでは、メンバーの意気込みなどの紹介をしています。

出場にあたって、越田伊吹キャプテンは「3戦全勝を目指して頑張りたい。岩手のミニバスチームが全国で戦えることを示したい」と意気込み、藤原康弘監督は「選手たちが全国のチームにどこまで食らいついていけるか楽しみ。全国との差をみつけて、今後の糧にしたい」と出場を楽しみにしていました。

チームの特徴は「スピード感のある攻撃と堅い守り」。地区大会と県大会では、走力を活かした素早い攻撃と、相手に自由を与えない守備で

JA全農いわて いわて純情米選手権  
**第42回 岩手県ミニバスケットボール交歓**



↑は矢巾ミニバス男子チームの集合写真 ※いずれも父母会から提供  
 ←は越田キャプテンが好摩ミニバスのキャプテンと健闘をたたえ抱き合う



戦い抜いてきました。

矢巾ミニバスは身長が高いチームではないと越田キャプテンは分析し、全国大会までに「リバウンドの強化をして大会に臨みたい」と話します。

県大会で印象に残っている

試合を聞くと、越田キャプテンと藤原監督は「準々決勝の好摩戦」とのこと。好摩は同じ盛岡地区で、何度も対戦してお互いの仲もよく、まさに「好敵手」。会場全体が注目した試合でした。試合終了後は健闘をたたえ、両キャプテンが抱き合いました。

好摩戦での勢いのまま、準

決勝では夏に対戦して負けている「水沢みなみ」にリベンジし、決勝「山目」は4ピリオドのうち、3ピリオドが2点差以内という均衡した試合を制し、県大会優勝。

県大会優勝の1週間後の練

習をのぞくと、チームが一丸となって練習に臨んでいました。練習中は選手同士がよく話し合い連携を高め、互いに攻撃や守備のアドバイスをしていました。

矢巾ミニバスの全国での活躍を期待しましょう。